

アルジェリア（2025年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在アルジェリア日本国大使館](#)

1. 2024年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2024年度日本語教育機関調査結果

初等教育			中等教育			高等教育			学校教育以外			全体の合計		
機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数	機関数	教師数	学習者数
0	0	0	0	0	0	1	3	20	2	11	76	3	14	96

（注）2024年度日本語教育機関調査は、2024年9月～12月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

アルジェリアでは2012年から、アルジェ第一大学及びアルジェ第二大学の語学センターにおいて日本語講座が開講したが、アルジェ第一大学における日本語講座は2014年に終了した。2021年12月、アルジェ第二大学がさくらネットワークに加入した。2026年1月現在まで日本に関する学部・学科は存在しない。

2013年12月1日には、アルジェリア初の日本語能力試験がアルジェ第二大学において実施され、約50名が受験。以降、日本語能力試験は2023年12月までアルジェ第二大学にて、2024年7月からはアルジェ市の私立語学学校（Institut Torii）にて毎年実施されている（2020年試験は新型コロナウイルスの影響で中止）。

背景

近年は若年層を中心に、日本のマンガ・アニメなどに接し、日本に親しみを感じる人が多く見受けられ、合わ

せて日本語に対する関心も高くなっている。

特徴

日本語講師は皆アルジェリア人である。

最新動向

インターネットを通じた独学による日本語学習が主流になりつつある。なお、一部大学機関での日本語の授業が、受講者の減少により 2023/2024 年度は閉講となった例がみられた。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

2012 年から、アルジェ第一大学及びアルジェ第二大学にて日本語講座が開講したが、アルジェ第一大学における日本語講座は 2014 年に終了した。アルジェ第二大学では学期中の毎週土曜日に 2 つの授業（初級及び中級）が外国語教育を担う言語集中教育センター（CEIL）にて実施されており、学生のほか、一般市民も受講することができる。また、2025 年 10 月より、オラン第一大学の CEIL にて日本語教育が開始された。2019/2020 年度から 2022/2023 年度までコンスタンティヌ大学の CEIL で日本語講座が開講されていたが、2023/2024 年度以降は受講者の減少により開講されていない。

学校教育以外

アルジェ市及びオラン市の私立語学学校（Institut Torii 及び ESSAL Language）において日本語の授業が開講されている。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

小学校はこれまで 6 年間（6-12 歳）だったが、2008 年の教育改革により 5 年間（6-11 歳）に短縮された。代わりに、これまで 3 年間（12-15 歳）であった中学校が、4 年間（11-15 歳）となった。高校は 3 年間。

高等教育段階は以下のとおり LMD（Licence：学士、Master：修士、Doctrat：博士）システムを採用している。

学士課程（L）：大学入学資格取得後 3 年の課程

修士課程 (M)：大学入学資格取得後 5 年の課程 (学士→修士への試験なし)

博士課程 (D)：大学入学資格取得後 8 年の課程 (修士→博士への試験なし)

国立行政学院 (ENA、グランゼコール) は、法学又は政治学士取得後、競争試験を受ける。

教育行政

小学校から高校までは国民教育省が、大学以上の高等教育は高等教育・科学研究省が管轄。

言語事情

国語及び公用語はアラビア語のみであったが、2016 年 2 月の憲法改正により国語であったベルベル語が公用語に格上げされた。また、フランス語が一般に広く用いられている。

外国語教育

小学校 3 年生から英語を履修 (必修) ※2022 年 6 月以前は中学校 2 年生から履修開始。

小学校 3 年生からフランス語を履修 (必修)。

高校 1 年生からスペイン語又はドイツ語を履修 (文系のみ必修)。

大学でロシア語、イタリア語、中国語又はトルコ語を履修 (選択)。

外国語の中での日本語の人気

高等教育機関では、非ヨーロッパ言語の中では日本語の人気は高いと言える。特に日本のマンガ・アニメなどに対する根強い人気から、日本に親しみを感じる人が多く見受けられ、合わせて日本語に対する関心も高まっている。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

『みんなの日本語初級』スリーエーネットワーク (スリーエーネットワーク)、『まるごと 日本のことばと文

化』、また自主教材などを使用している。

学校教育以外

『みんなの日本語初級』や『まるごと』を使用している機関もあるが、全体として教材が不足している。

IT・視聴覚機材

アルジェリアのものは存在しないが、各種サイトへのアクセスは可能。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

資格要件は特にないが、日本への留学経験のあるアルジェリア人の大学教授が教師をしている。

学校教育以外

私立語学学校では独学で日本語を習得したアルジェリア人が教師をしている。

日本語教師養成機関（プログラム）

日本語教師養成を行っている機関、プログラムは確認されていない。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本語のネイティブ講師（日本人教師）の雇用は確認されていない。

教師研修

2019年12月、JF カイロ日本文化センターから派遣された日本語専門家によるアルジェリア人日本語教師を対象とした日本語セミナーが、在アルジェリア日本国大使館にて開催された。

6.教師会

特になし。

日本語教育関係のネットワークの状況

日本語教育関係のネットワークは確認されていない。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

国際協力機構（JICA）からの派遣

JF、JICA からの派遣は行われていない。

その他からの派遣

特になし。

8.シラバス・ガイドライン

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムは確認されていない。

9.評価・試験

2013年12月から毎年日本語能力試験が実施されている（2020年試験は新型コロナウイルスの影響で中止）。2022年度からは日本語能力試験が7月及び12月の年2回の開催となった。

10.日本語教育略史

1985年～ 1993年	日本人学校で夜間にアルジェリア人向けの複数のコースを開講
2012年	アルジェ第一大学及びアルジェ第二大学にて、日本語講座が開講
2013年	アルジェ第二大学にて日本語能力試験を開始
2014年	アルジェ第一大学における日本語講座が終了
2019年	コンスタンティーヌ大学にて日本語講座が開講
2021年	アルジェ第二大学がさくらネットワークに加入

2023 年

コンスタンティノーヌ大学における日本語講座が終了

情報更新についてのお願い

この国の日本語教育に関する情報がありましたらお知らせくださるようお願いいたします。
なお、内容の確認のため、こちらからご連絡する場合があります。

Eメール：kuniketsu@jpf.go.jp

(メールを送る際は、全角@マークを半角@マークに変更してください)